

きょうさいだより

S a s e b o K y o s a i H o s p i t a l C o m m u n i c a t i o n P a p e r

2026
Vol.26
1号



INDEX

- 2 ●ごあいさつ 院長 三ツ木 健二
- 3 ●医療を支える人
- 4 ●診療活動の現況 ー 循環器内科 ー
- 6 ●ピックアップ記事
- 7 ●医療連携室より
- 編集後記
- 8 ●外来診療担当表

佐世保共済病院キャッチフレーズ

信頼される医療、つながる人の輪

ミッション ~当院が社会に対して「なすべきこと」~

佐世保・県北医療圏の地域医療を守ります

ビジョン ~当院がめざす「あるべき姿」~

佐世保・県北医療圏の基幹病院として、
地域のみなさんから選ばれる最高の病院をめざします

バリュー ~当院の職員が具体的に「やるべきこと」~

- ・地域のみなさんから信頼される病院をめざします。
- ・患者さんに寄り添い、思いやりの心を持って接します。
- ・優しく、あたたかく、行き届いた医療を提供します。
- ・職員を大切にし、安心して働ける病院づくりをします。
- ・プロとしての自覚を持ち、研鑽に努め、最新の医療を提供します。
- ・地域医療を守るために、人材の確保・育成に努めます。
- ・急性期病院維持のため、健全経営に努めます。

〒857-8575 長崎県佐世保市島地町10番17号 TEL0956-22-5136(代)

紹介受付専用FAX(医療連携室) 0120-12-2067 HP <https://sb.kkr.or.jp/>

急患室直通FAX 0956-22-6052 (代)FAX0956-25-0662

※休日・夜間のご連絡は、急患室直通の番号でご連絡下さい。

新年のごあいさつ

院長 三ツ木 健二



新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。いわゆる団塊の世代がすべて75歳以上となる「2025年問題」は以前から指摘されていましたが、昨年は日本社会全体が大きな転換点を迎えた一年であったと感じています。特に医療を取り巻く状況は急速に変化しており、最近感じている課題を3点挙げたいと思います。

1. 医療費は増加しているのに、医療機関は経営危機に

国民医療費は年々増加し、2023年度には48兆円を超える規模となりました。一方で、マスコミ報道にもあるように、全国の医療機関は大学病院も含め、前例のない経営危機に直面しています。診療報酬が物価や人件費の高騰に追いつかないことなど複数の要因があります。政府は若年層の負担軽減に向け高齢者負担の増加も検討していますが、持続可能な医療の実現には、今後さらに議論が必要と思われます。

2. 救急患者は増加しているのに、入院患者数は減少

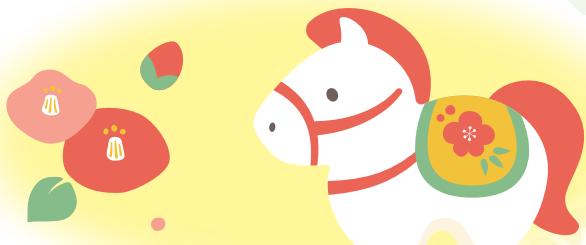
高齢化、熱中症患者の増加、軽症・中等症患者の増加などにより、救急の受入患者数は年々増加しています。一方、外来で治療可能な疾患の増加、低侵襲手術による入院期間短縮、在宅医療の進展により、入院医療の需要は減少しています。国政レベルでは病床削減を盛り込んだ医療法改正案が通過しており、今後は病院の統合やダウンサイ징がさらに進むことが予想されます。

3. 医師数は増えているのに、外科医と地方医師は不足

2022年の日本の医師数は過去最高の約34万人となりました。しかし、大都市への集中や地方での医師不足、医師の高齢化は続いています。さらに、厳しい労働環境が指摘される外科医は年々減少し、診療科間の偏在も大きな課題となっています。

医療を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、これまでの「アクセスが良く、安価で、良質な医療」が当たり前とは言えなくなるかもしれません。そのような中でも、地域の皆さんに安心・安全で最新・最良の医療を届けるため、佐世保県北医療圏の医療機関との連携をさらに強化し、職員一同、同じ目標に向かって努力してまいります。

本年が皆様にとりまして健やかで実り多い一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



地域救急医療を担う救急外来

救急外来 師長代行

まつ い こう じ
松 井 幸 司



【部署の特徴】

当院は救急告示病院であり、佐世保市の二次輪番病院としての役割を担っています。年間の救急車受け入れ台数は約2,000件で、二次輪番日には緊急時に24時間診療体制を確保できるよう、内科系・外科系の2科当直体制に加え、産婦人科の院内待機制を実施しております。また、二次輪番日以外の日においても、1科当直と産婦人科の院内待機制を整え救急患者の受け入れに対応しています。

当部署では、2025年4月より救急外来スタッフが4名増員となり、管理者である師長代行を含め5名体制で日中の救急患者対応を行っています。勤務体制は二交代制を採用しており、夜間の救急患者対応にも従事しています。

【救急外来での看護師の役割】

救急外来では、突然の外傷や急激な疾病の発症、慢性疾患の急性増悪などにより医療を必要とする患者様に対し、迅速かつ適切な看護を提供しています。当部署には、専門教育を受けたクリティカルケア認定看護師・救急看護認定看護師(特定行為研修修了者)も在籍しており、医師のタスクシフト・タスクシェアの推進にも貢献しています。

<クリティカルケア認定看護師・救急看護認定看護師の特定行為修了区分>

特定行為区分	特定行為
呼吸器(気道確保に係わるもの)関連	経口用気管チューブ又経鼻用気管チューブ位置の調整
呼吸器(人工呼吸療法に係わるもの)関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 人工呼吸器からの離脱
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血 橈骨動脈ラインの確保

特定認定看護師

Nurses Pertaining to Specified Medical Acts
Sasebo Kyosai Hospital

また、経験豊富な医療スタッフが常駐し、多職種連携によるチーム医療を通じて患者様一人ひとりに最適なケアを提供しています。さらに、地域の医療機関や救急隊と密に連携し円滑な搬送・受け入れ体制の維持に努めています。地域の基幹病院の看護師としての自覚を持ち、定期的な学習会(患者急変対応KIDUKIコース開催やフィジカルアセスメント、症候別対応など)やシミュレーショントレーニングを実施し継続的な自己研鑽に取り組んでいます。



救急外来スタッフ



救急外来入口

診療活動の現況

循環器内科

循環器内科 医長

もり しんたろう
森 信太郎



【はじめに】

高齢化社会の進行により、心不全の患者さんが急増しており、「心不全パンデミック」とも呼ばれています。高齢者的心不全では、併存疾患を抱えていることが多く、入退院を繰り返してQOL低下に至り、介護や社会的サポートを要するといった問題もはらんでいます。

心不全は、さまざまな心疾患がたどる終末像であり、心不全の基礎疾患としては、心筋梗塞などの虚血性心疾患が最も多く、弁膜症、不整脈、高血圧、心筋症と続くと言われています。

わが国において心筋梗塞は増加傾向であり、日本の人口は近年減少局面を迎えており、高齢者の割合がさらに高くなり、65歳以上の人口は緩やかにしか減少せず、今後も心筋梗塞や心不全を発症する人口が減少する訳ではないとも言われています。

また、医療の進歩により治療の選択肢は増えており、年齢や患者背景に応じた適切な治療法を選択していく必要があると考えられます。

HFpEF:左室駆出率の保たれた心不全
HFrEF:左室駆出率の低下した心不全



年齢・性調整心不全患者数の推定
(Fujimoto W, et al. 2021) 日本循環器学会
心不全診療ガイドライン2025年改訂版

急性心筋梗塞は増えている



ST上昇型急性心筋梗塞の症例数
日本心血管インターベンション治療学会データ

【循環器疾患の治療の進歩】

日本では1980年代に、冠動脈に対する心臓カテーテル治療が開始され、虚血性心疾患に対する治療法として確立して普及してきました。

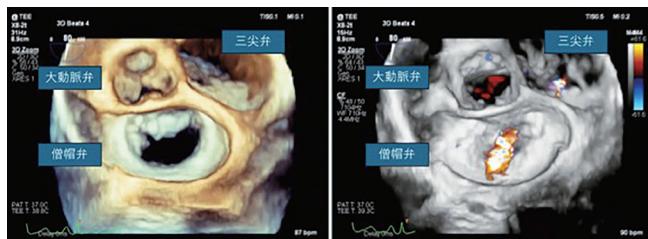
また、虚血性心疾患以外にも様々なカテーテル治療が進歩しており、特に近年は構造的心疾患(SHD: Structural Heart Disease)に対するカテーテル治療が著しい進歩を遂げています。SHDとは、弁膜症・先天性心疾患・心筋疾患など、心臓の構造的な異常に伴う心疾患の総称であり、代表的なものとしては、大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症などの弁膜症が挙げられますが、従来は

外科的な開心術でしか治療できなかつたのが、近年は低侵襲なカテーテル治療も可能になってきております。具体的には、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植込み術(TAVI: Transcatheter Aortic Valve Implantation)が2013年から、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術(M-TEER: Mitral valve Transcatheter Edge-to-Edge Repair)が2018年から日本では行われるようになり、これらの治療を中心にSHDカテーテル(インターベンション)治療が発展してきました。

しかし、TAVIおよびM-TEERを行うことができる施設は、現時点では佐世保ではなく、長崎県では長崎大学病院のみ、佐賀県では佐賀大学病院のみで、福岡県まで足を伸ばすと、小倉記念病院・久留米大学病院・九州大学病院など複数の施設が可能となっているものの、SHDインターベンションが可能な施設は限られています。いずれにしても、低侵襲なSHDカテーテル治療を受けるためには、佐世保在住の患者さんは、遠方に紹介させて頂く必要があり、紹介前に適切に診断することが重要であると考えられます。

SHDの診断においては、心エコー検査が必須であり、特に、僧帽弁閉鎖不全症・大動脈弁閉鎖

不全症・三尖弁閉鎖不全症などの術前診断として、一般的な経胸壁心エコー検査に加え、経食道心エコー検査が非常に重要とも言われております。近年のSHDカテーテル治療の発展とともに、心エコー機器も高度化しております。



当院で施行した経食道心エコー (3D画像)

【当院循環器内科の紹介】

2010年より赴任した金谷部長が、当科の診療体制を作つてこられましたが、2024年4月より地元の佐世保に帰ってきた私(森)が加わり、現在は、金谷部長、森、久留米大学派遣医師1名の常勤医師3名に加えて、非常勤医師3名の計6名の医師で、診療を行つております。

外来は毎日2名が担当し、現在は外来予約枠の制限も設けておらず、紹介して頂いた患者さんを速やかに対応する体制としております。

心不全、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、弁膜症(大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症など)、不整脈、肺血栓塞栓症など、一般的な循環器疾患には基本的に対応しており、完全房室ブロックや洞不全症候群などの徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術や、虚血性心疾患などに対する心臓カテーテル検査(CAG:冠動脈造影検査など)・治療(PCI:経皮的冠動脈形成術)も行つております。なお、血管造影装置は、2020年9月にPhilips:Azurion7 B20/12(バイプレンシスシステム)を導入しております。

当院では、夜間や休日に急性冠症候群(急性心筋梗塞・不安定狭心症)に対する緊急PCIも施行しており、心血管インターベンション治療学会(CVIT)専門医である私が赴任した2024年度以降、急性冠症候群に対する緊急PCIも積極的に対応可能となり、PCI件数が増加しております。

(CAG件数を除いたPCI件数のみで、2023年度まで年間30件程度だったのが、2024年度は47件と増加し、2025年度はさらに増加して70件程度になる見込みです。)

前述の通り、当院でSHDインターベンションはできませんが、私は日本トップクラスのSHDインターベンション件数を誇る小倉記念病院に過去6年間在籍し、同院SHDチームにも所属して多数のSHDインターベンションに携わり、SHD心エコ認証医・JB-POT(日本周術期経食道心エコ認定医)も取得してきました。当院では(主に経食道心エコ検査における)3D解析が可能なエコー機器(Philips:EPIQ Elite)を2025年3月に導入しております、弁膜症などのSHDを適切に診断し、然るべき施設に御紹介させて頂くことが可能ではないかと考えております。

また、「心不全パンデミック」と呼ばれる昨今、併存疾患を多く有する高齢者も含めた多様な心不全の診療において、年齢や患者背景を考慮した適切な治療法を提案・選択しつつ、病診連携・病病連携をはかりながら、患者さんに最も良い治療を提供できるよう努めております。



スタッフ一同

小児アレルギーエデュケーターを取得しました！

看護師より

今回、長崎県で初となる小児アレルギーエデュケーター（PAE）を取得しました。当院では管理栄養士1名と、看護師3名が在籍しております。

小児アレルギー罹患者は年々増加しています。乳幼児期のアトピー性皮膚炎を始まりとし、食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎と、次々と異なる時期にアレルギー疾患が出現していくことを「アレルギーマーチ」と呼びます。遺伝要因や環境要因など様々な原因や悪化因子が関連していることから、小児期の早期診断、早期介入が重要となります。また、長期に治療が必要となることから、自宅での継続的なケアが必要であり、ご家族の心配事や不安なども多くあります。そのような中で、PAEは正しい知識の情報提供、治療薬のアドヒアラランス向上のため、ガイドラインに則った専門的な治療を学ぶだけではなく、行動科学マネジメントを取り入れることにより、アレルギー疾患を持つ子ども達のQOL改善に貢献する必要があります。そのため、医師をはじめとして、様々な職種と連携を取りながら、患者さんやご家族のサポートをおこなっております。また、啓蒙活動として、保育園や幼稚園、小学校関係者を対象に講義なども開催しております。

今後も、他職種と連携を取りながら、貢献していきたいと考えております。是非お気軽に声をかけてください。

看護師 川原 雅恵 / 秋山 アユ / 池田 裕子

管理栄養士より

管理栄養士は、医師による正しい診断にもとづいた必要最小限の食物除去を行いながら、適切な栄養素の確保、生活の質が維持できるように栄養食事指導を行っています。健康的で、安心安全な食事ができ、楽しい食生活がおくれるよう、患児やその家族に寄り添った支援をしていきたいと思っています。

またPAE管理栄養士として、アレルギー疾患で困っている地域の皆さんのお役に立てるよう、PAE看護師と一緒に幅広く活動ができればと思っています。

管理栄養士 安岡 幸



アレルギー負荷試験中

医療法人 まつお内科医院

わし みね ひさ のり
院長 鷺峯 久紀 先生

〒858-0905 長崎県佐世保市下本山町1316-4
TEL 0956-48-6500 FAX 0956-48-6502

院長:鷺峯久紀

副院長:松尾祐三



医師:松尾新一郎

当院は佐世保北部に位置し、内科医師2名と泌尿器科医師1名が在籍する有床診療所です。内科・泌尿器

科の一般外来に加え、夜間帯にも対応した維持血液透析を行っています。シャント手術やPTA、透析患者様の入院加療も行っています。さらに、通所リハビリテーションや居宅介護支援も併設しており、透析をはじめとする患者様の通院等の生活のサポートに努めています。

今後も佐世保共済病院様と連携を深めながら、地域医療に貢献してまいりたいと思っています。



山口医院

やま ぐち のり こ
院長 山口 紀子 先生

〒857-0011 長崎県佐世保市春日町29-14
TEL 0956-22-8610 FAX 0956-22-8635



医師:山口 紀子

当院は、佐世保市春日町北部地域を中心に、皆さまの健康を守る「かかりつけ医」として、内科、乳腺外来を中心に診療を行っております。共済病院など地域の中核病院と連携し、

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～ 12:30	●	●	●	—	●	● (第1・ 第3のみ)	—
13:30～ 17:00	●	●	●	—	●	—	—
休診日	内科・泌尿器科・人工透析内科						
診療科目	内科・泌尿器科・人工透析内科						

丁寧な診療を心がけております。2024年8月には、旧院を建て直し、新しい施設での診療を開始致しました。現在、医師3名の交代制で診療を行い、乳腺外来は予約制で、長崎大学病院乳腺センター長・教授を兼務する山口倫が、月・木・土曜日午前中の診療を担当しております。これからも、患者さん一人ひとりに寄り添う医療を実践

してまいります。



編集
後記



鍋の美味しい季節になりました。佐世保と言えば牡蠣ですね。ポン酢と大根おろしがあれば最高です。が、ノロウイルスには要注意ということで、しっかりと火を通して頂きたいと思います。身も心も温めて、寒い冬を乗り切りましょう。

編集委員 情報システム課 池田 龍也

外来診療担当表

2026年1月1日 現在

科	役職	医師名	月	火	水	木	金	備考(専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	
腎臓内科	部長	金谷 晶子		●		●		腎臓疾患・人工腎臓
	医長	池田 裕貴	●				●	腎臓疾患
	医員	水田 将人	●	●			●	腎臓疾患
	//	藤井 真子			●		●	腎臓疾患
循環器内科	診療部長	金谷 誠司			●	●		循環器疾患
	医長	森 信太郎		●			●	循環器疾患
	医員	江藤 成頼	●		●			循環器疾患
	非常勤	西田 憲史				●		循環器疾患
	//	赤垣 大樹	●	●				循環器疾患
	//	森田 浩介					●	循環器疾患・不整脈
腫瘍内科	院長	三ツ木 健二	◆		●		◆	1.消化器がん 2.乳がん 3.原発不明癌 4.肉腫 その他
	医員	山家 覚	●	●			●	◆:新患のみ
消化器内科	部長	河野 健次		※		●		肝臓疾患・糖尿病 ※第2・4週
	部長	吉田 亮		●				消化器疾患・内視鏡診断治療(食道・胃・十二指腸・大腸・咽頭)
	医員	坂口 洋司	●				●	消化器内科
	非常勤	藤松 雅彦			■			消化器内科
	//	福谷 洋樹		●				消化器内科 毎週火曜日
呼吸器内科	非常勤	秋山 元太			●			呼吸器疾患
	//	山下 翔				●		呼吸器疾患
糖尿病内科	非常勤	安西 廉三		●				毎週火曜日 診療時間 9時～12時
総合内科	非常勤	太田 一寿	■					毎週月曜日(予約のみ)
	//	小峯 豪心					※	※第2・4週
外科	診療部長	丸山 祐一郎	●			●	●	消化器外科・肝胆膵外科・一般外科
	乳腺外科部長	原田 洋	●					乳腺外科・一般外科
	消化器外科部長	富崎 真一	●	●	●			消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	医長	野口 哲志	●				●	消化器外科・一般外科
	医員	伊集院 元気			●	●		消化器外科・一般外科
	顧問	井原 司			●	●		消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科
	非常勤	川畠 方博		※				肝胆膵外科・消化器外科・一般外科 ※第1・3・5週
乳腺外来			■	■	■		■	※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい(要予約)
整形外科	部長	水城 安尋		●	●		●	上肢の外科(肩肘手)・足部外科・スポーツ障害
	医長	内村 大輝	●			●	●	上肢の外科・スポーツ障害
	//	上田 幸輝	●		●	●		膝・腫瘍
	//	千住 隆博	●	●	●	●	●	股関節疾患・上肢の外科(肩肘手)
	//	坂本 和也	●	●	●	●	●	肩疾患・足部外科
	医員	高村 優希	●		●	●		整形外科一般
	//	河野 克明	●			●		整形外科一般
	//	末原 由悠			●			整形外科一般
産婦人科	医長	友延 寛		●	●		●	一般婦人科、産科・周産期
	医員	勝間 慎一郎	●		●	●	●	
	//	金子 夏生	●	●	●	●		
	//	室本 大河	●	●		●	●	
	顧問	鶴地 伸宏	●		●	●		
泌尿器科	部長	中村 貴生	▲	■	■	■		泌尿器疾患 ▲:月1回奇数週(第1又は第3週)
	医員	伊藤 秀徳	●	■	■	■	■	●:月2回偶数週(第2・第4週)
	//	天本 広太	■		■	■	■	
耳鼻咽喉科	医長	中島 純一郎	■	■	■	■	■	鼻科・耳科疾患・聴覚疾患・耳鼻咽喉科一般
	医員	近藤 玲未	■	■	■	■	■	
眼科	医長	伊崎 亮介	■	■	※	■	■	白内障手術・緑内障手術・硝子体手術・翼状片手術、レーザー光凝固術
	※:火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)							
麻酔科	副院長	深野 拓	■	■	■	■	■	月～金午前:ペイン・緩和ケア・術前外来 月～金午後:手術麻酔
ペインクリニック	部長	境 徹也			■	■		月～金午後は手術麻酔 受診等の問合せは、直接外来までお電話下さい。
	部長	合田 裕治	■	■	■	■	■	小児アレルギー疾患・食物アレルギー・小児一般・気管支喘息
	非常勤	東島 理絵子		●				
	乳児健診							火曜 13時から診察開始 13時までに受付を行って下さい
	慢性外来				●			水曜 14時から診察開始
歯科口腔外科	アレルギー外来					●		木曜 14時から診察開始
	顧問	窪田 泰孝	●	■	■	■	■	抜歯・イプラント・顎顔面外傷・口腔腫瘍・顎関節症
	医長	上妻 亜也子	●	■	■	■	■	歯性感染症など
	医員	吉永 拓生	●	■	■	■	■	
	非常勤	金本 正樹	■	■				
放射線科	部長	野々下 政昭	※検査・画像診断についての申し込み・問合せは、外来までお電話下さい。					MRI、CT、RI、超音波検査
	医長	梶原 寿浩	※検査・画像診断についての申し込み・問合せは、外来までお電話下さい。					
	医員	枝光 莉里	※検査・画像診断についての申し込み・問合せは、健診センターまでお電話下さい。 健診センター直通電話 0956-22-6155					
健診センター	健診センター長	佐藤 浩信	※申し込み・問合せは、健診センターまでお電話下さい。					
	医員	平田 有香	健診センター直通電話 0956-22-6155					

●診療日

■予約のみ ◆新患のみ